

『パーフェクト・ゲッタウェイ』
-A Perfect Getaway-

(2009年公開)

※DVDレンタル・販売あり

地上の楽園ハワイを訪れたハネムーンのカップルが
猟奇的な殺人事件に巻き込まれていく

映画タイトルに使われた「GET-AWAY」を辞書で引いてみた。意味は「犯人の逃亡」。他にも、「レースなどのスタート」「芝居の開幕」「保養地・期間」「現実逃避」「認めない」「不要なものを取り去る」など、いろいろな意味があり、映画を見終わると、全ての意味が当てはまっていることに驚かされるだろう。「パーフェクト・ゲッタウェイ」は、原作小説はない。ハリソン・フォード主演映画「逃亡者」の脚本で知られるデヴィット・トゥーニーの、監督・脚本映画だ。

新婚カップルが殺され
犯人2人組が逃走中

映画脚本家のクリフと、その妻シドニーは新婚旅行でハワイ・カウアイ島に来ていた。2日間かけて、秘境

がら2日以上かけて、秘境の素晴らしい景色を楽しんでいる。そのトレッキングの様子を疑似体験できるのも、この映画の醍醐味だろう。公開当初、ハワイの秘境の素晴らしい風景を堪能できる、サスペンス映画として話題になったが、実際の撮影にはブルート・リコやジャマイカもあつたらしい。どのシーンがこの景色か、という邪推は傍に置いておいて、空撮で魅せてくれるカウアイ島の、広大な自然は、「ハワイへ行きたい!」という気持ちを大いに高めさせてくれるに違いない。



の先にある美しいビーチを目指してトレッキングを始める予定だ。出発直後に出会ったクレオとケイルのカップルに、車に乗せてほしいと求められるが、クリフは刺青姿のケイルに不安を抱き、やんわり断る。トレッキングの途中、岸壁で足を滑らせそうになったシドニーは、軽装すぎる格好のニックに助けられる。彼は特殊部隊出身で、クリフとは全然違う、ワイルドな男だった。森の中で

会った女性グループから、ホノルルで新婚カップルが惨殺され、犯人の男女2人組が逃走中という情報を聞いたニックは「どうする? やめるなら今のうちだ」とシドニーにたずねるが、「せっかくのハネムーンよ」と聞く耳を持たず、ニックがキャンプをしているシークレット・フォールズへと向かう。深い森の中の秘境で、

重要シーンの背景に
登場する2隻の巨大客船

この映画に登場する豪華客船を見つけたのは、偶然の事だった。テレビ放映していたのを録画し、後日鑑賞していたところ、重要なシーンの背景にさりげなく映り込む、巨大な豪華客船の姿を発見した。

最初の一隻は、ニックとジーナがホノルルの街を歩くシーンで、船体の船名も「エクスポローラー・オブ・ザ・シーズ号」と、はっきり読み取れる。13万8194トン、全長311メートル、幅38.6メートル。1999年に史上最大級の客船としてデビューした「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ号」に続く第2船として2000年に就航。その大きさだけでなく、洋上に浮かぶアイススケートリンク、63メートルのロッククライミング・ウォールなど、クルーズ客船に新しい風を巻き起こした14万トンシリーズだ。船内は、エキゾチックな内装で他の同型船とは違う雰囲気味わうことができる。また、地球の大気と海洋を調査する船上研究室をデッキ4と13に備え、地球温暖化やオゾン層研究を通じて環境保護に寄与。

美しい滝と湖があり、ニックの恋人のジーナが裸でくつろいで待っていた。ニックも裸になってジーナの元へ。自由な彼らに戸惑いつつも、心も体も開放的になっていくシドニーと反対に、クリフは不安を募らせていく。一人岩場に登り、携帯電話で殺害事件のニュース記事をチェックしているとき、さつきヒッチハイクしてきたクレオとケイルが現れる。

連なる絶壁と
白いビーチ

カウアイ島の感動絶景

ロケ地は、映画「ジュラシックパーク」でも使われた、ハワイで天然の自然が一番残っているカウアイ島だ。別名「庭園の島」と呼ばれ、長い歳月と天候によって形成されたエメラルド色の渓谷、尖った山頂、険しい崖、生い茂る熱帯雨林、複雑に分岐した川、連なる豪快な滝が観光の目玉になっている。

主人公の恋人たちがトレッキング

世界の海を巡る巨大船ならではの意識の高さを感じさせる。日本初来航は2009年4月21日の福岡寄港になる。

もう一隻は、クリフとシドニーがホノルルではしゃいで記念撮影をしているシーン。船名は読み取れないが、船体のフォルムから「サン・プリンセス号」だと推測できる。7万7441トン、全長261.3メートル、幅32.25メートル、1995年の竣工当時は世界最大の客船だった。2008年8月29日の大阪寄港の日本初来航から5年後の2013年から、日本発着クルーズが国内客船の半額近い価格で登場し、「黒船」とも呼ばれたことは、クルーズファンなら記憶に新しいだろう。2015年から「オーストラリア」で通年配船となり、2017年現在のプリンセス・クルーズ日本発着クルーズは「ダイヤモンド・プリンセス」のみだ。

外国船の日本発着クルーズは
なぜ海外に寄港するのか

外国船の日本発着クルーズには、海外での寄港が付き物である。これは「カボタージュ」、1国内の2地点

ハワイの新婚旅行中のクリフとシドニー(ミラ・ジョヴォヴィッチ)の背景に「サン・プリンセス号」が登場



(イラスト: 吉崎 英二郎)

間の旅客または貨物の運送する際のルールとして、日本では内航海運業法によって「外国船籍の船が日本国内だけで完結するクルーズを禁止」と定められているからだ。

海外のクルーズ会社が巨大な資本を元に、破格の価格で日本国内のみのクルーズを催行すると、外国船籍のクルーズ客船が集中し、日本船籍のクルーズ客船が利用されなくなる恐れがある。また、外国船籍は日本に税金を払う義務がないので、日本の税収入も減ってしまう。そのような理由が重なり、日本国内のみのクルーズは日本船籍のクルーズ客船に限定され、外国船籍のクルーズ客船は必ず1度は海外の港に寄らなければならない。

話は映画に戻る。「エクスポローラー・オブ・ザ・シーズ号」も「サン・プリンセス号」も、いずれも作中では回想のモノクロシーンの背景としての登場で、ホノルルという場所設定ではあるが、もしかしたらブルート・リコかもしれないし、ジャマイカかもしれない。それも傍に置いておいて、この映画を発見できた幸運に感謝しよう。

(クルーズ映画ライター あいさわみき)